

介護施設入居者の図書館に関するニーズ —住宅型有料老人ホームに着目して—

安富 匠

日本では高齢化率の上昇に伴い、介護施設の定員数や要介護認定者数も増加している。多くの介護施設において、入居者は自由に外出をすることが難しく、図書館などのような施設を利用することは難しい状況にある。しかしながら、高齢者にとって読書や図書館というのは、余暇を過ごすときの選択肢として多くの高齢者が挙げやすいものである。また「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」において、高齢者が図書館利用者の一つのカテゴリとして認識され始め、図書館を訪れることが難しい高齢者も、独自の図書館に対するニーズを抱えていると考えられる。そこで本研究では、介護施設の入居者の図書館に関するニーズを明らかにすることにより、図書館による介護施設の入居者を対象とした読書支援サービスについて考察することを目的とする。介護施設の中でも、外部サービスを利用しやすく入居者の性格も幅広い、住宅型有料老人ホームに着目する。

本研究では文献調査、ウェブ調査及びインタビュー調査を行った。文献調査とウェブ調査では、高齢者に提供されている介護サービスにはどのような種類のものがあるのかを明らかにすることを目的として、日本の高齢者向け介護施設について分類ごとにまとめ、その特徴や入所基準などについて調査した。また、現在、介護施設に対して図書館が提供している読書支援サービスの種類を明らかにするために、日本の図書館が介護施設に対して実際に提供している読書支援サービスについて調査した。インタビュー調査では、現在図書館による読書支援サービスを受けていない住宅型有料老人ホームにおいて、その入居者が読書や図書館に対してどのようなニーズを抱えているのかについて調査した。インタビュー調査の対象は、群馬県内の住宅型有料老人ホーム施設の入居者3名、及び職員3名である。

今回調査した介護施設において入居者は読書や図書館に関する過去の経験が少なく現在も訪れることが難しく実行しづらいことから、ニーズが低いものであった。しかしながら、図書館の外部サービスについて説明したところ、それらの図書館サービスを利用したいという声が入居者と職員の両方から挙がった。特に回想法や朗読サービスについては、図書館の職員とコミュニケーションが取れることなどから、ニーズが高いことが明らかとなった。一方で団体貸出のようなサービスは、入居者の読書へのニーズが低いという結果となったことから、自発的には図書が利用されにくいと考えられる。そのため、ただ図書を貸し出すだけのサービスよりも、実際に図書館の職員が来て相互的にやり取りを行うサービスの方が介護施設の入居者のニーズは高いと考えられる。

(指導教員 呑海沙織)